

## 適正な利潤とは何か

職業奉仕がロータリーの根本理念と言いました。それは、ロータリーがロータリーアンに奉仕の心を授け、奉仕の心を育てさせる倫理を提唱していく団体であることと深く関係があります。

ロータリーでいう職業奉仕の真の意味は、「適正な利潤」を得て、自分の職業を通じてサービスを施し、社会のために尽くすことです。

企業は利益がなければ成り立ちません。然し利益には自ら限界があります。

例えば、企業がある商品を 100 円で仕入れて 100 万円で売ったとします。売れる、売れないは別として売れたとします。そのような膨大な利益は、ロータリー的な利益とは言えません。適正な利潤を超えているからです。適正な利潤を超えると相手方であるお客様は、大変な損をすることになり不幸になってしまいます。これでは、皆さんが、いつもよく歌っている四つのテストの「みんなに公平か」に反してしまふ。

ロータリーは企業とお客様の両当事者を利するものでなければならない、つまり「利己と利他の調和」を追及するところであり、ロータリーの目的、方針はこのことを言うのです。

常に、この調和を求めていくと一つの取引を通じて目に見える商品と代金の交換の中で双方に目に見えない感謝と満足感が生まれ、それが信用となり企業は繁栄します。

要するに、企業経営は利潤の追求ですが、儲けの中で儲けてもよい利潤（適正な利潤）の追求をロータリーは目的としています。

それでは適正な利潤とは何か？が問題となります。

各企業の業務内容や目的、慣例等によって適正かどうかの判断は異なり、一概に決めることは非常に難しいと思いますが、参考例として、豊中北RCの笹部政雄元職業奉仕委員長の話引用させていただきます。

『今日、世界経済の上で支配的な実力を持っているのはユダヤ民族ですが、ユダヤ商法を支えているのは宇宙の法則だと言われています。この法則に

「78：22」というのがあります。例えば正方形の面積を 100 とするならば、これに内接する円の面積は 78。そして、四隅に残った面積の和は 22 になる。また、空気中の成分は窒素 78、酸素 22 の割合になっています。人間の身体は水分が 78 でその他の物質が 22 の割合で出来ているという。これは大自然の宇宙の法則であってユダヤ人の商法はこの法則の上に成り立っているといえます。世の中には、金を貸したい人と借りたい人とがあるが、私たちの想像では借りたい人が多数を占めると思うでしょう。実際には全く逆で貸したい人が圧倒的に多いそうです。ユダヤ論法から言うと、貸したい人が 78 で借りたい人

が22で、それで世の中は成り立っているのだそうです。

企業の経営も、原価が78、利益22にすればユダヤの法則に合致するわけです。この法則に従うとすれば、職業奉仕というものは、もちろん、原価78の中でいろいろ行われるべきであります。78の全体が一つの固まりであり、そこが職業奉仕の分野です。

製造業を例に取れば、先ず良い材料を選ぶ、製造に当たる技術者や従業員には細心の注意を払わせる、取引先や従業員や顧客へも十分配慮するなど数限りないサービスの場があるはずで

す。サービスという言葉の代わりに奉仕と言う文字を使うと、言葉の感覚からして、78の内容がどうであるかよりも、利益の22の中から、幾分かを世間にご奉仕すれば、それがいわゆる職業奉仕だろうと誤解するロータリーアンを生ずる恐れがあります』と述べられています。

いかがでしょうか、参考になりましたでしょうか。

次回のタイトルは、コンプライアンスとロータリーの職業奉仕です。